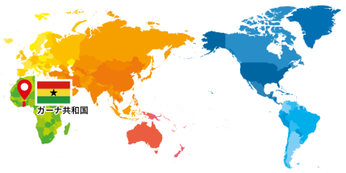
SDGs新聞	株式会社 明治
ガーナ共和国　あらゆる角度から農家支援を。	

SDGsラジオを読んでみよう！

チョコレートの原料になるカカオは、どこでつくられているか知っていますか？
世界の約76%のカカオ豆がアフリカで生産されます。ガーナ共和国は、世界第2位の生産量を誇ります。そして、日本の輸入量の約74%がガーナ産カカオ豆です。
食品会社の明治は、2006年から世界中にあるカカオの産地で支援活動を行っていて、ガーナでも現地を訪れてさまざまなサポートに取り組んでいます。
苗木の配布にはじまり、栽培方法や森林減少についての勉強会の開催、さらには井戸の寄贈、子どもたちへの教育支援やチョコレートづくり体験など、あらゆる角度から産地を支援しています。
農家さんや地域の環境が良くなれば、質の高いカカオをいっぱいつくれるようになります。そして、たくさんの人がチョコレートを食べれば、産地がさらに豊かになります。
チョコレートを食べて、遠い国の人々の笑顔に貢献する。
それも、SDGsの達成に向けての立派なアクションなんですよ。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



ガーナ共和国（以下「ガーナ」）は西アフリカの南大西洋（ギニア湾）に面する、面積約24万㎢（日本の約2/3）・人口約3300万人の国です。産業は、かつてこの地域が「黄金海岸」と呼ばれたように、金が国の特産品であり、現在も最大の輸出品です。また2000年代後半、沖合で油田が発見され、石油も重要な輸出品に加わりました。農業ではカカオが世界第2位の生産量を誇っています。ガーナは日本との関係も古く、今からおよそ100年前、野口英世が首都・アクラで黄熱病の研究を進め、その研究中に自身が黄熱病にかかり亡くなりました。ガーナはその功績を称え、彼が研究をしていた病院に「野口英世記念館」をつくりました。その後、日本政府によってガーナ大学に「野口記念医学研究所」が設立され、現在も西アフリカ諸国のために感染症の研究が進められています。

井戸の寄贈/営農指導のようす
（明治公式HPより）

現在日本に輸入されているカカオの約3/4がガーナ産です。そのガーナを支援するため、明治では「メイジ・カカオ・サポート」という取り組みを2006年からはじめました。これは、高品質なカカオを生産し続けられるよう、カカオ農家を支援するための取り組みで、スタッフが世界各国の産地まで足を運び、現地の農家のいろいろな課題に合わせた支援を行っています。ガーナに向けては、生活に欠かせないきれいな水を確保するための井戸の寄贈や、生産性が高く森林保全につながるカカオの苗木を無償で配布するなどしています。そのほか、カカオや資材などを運ぶ軽車両の寄贈や農家に対する営農指導など、さまざまな手段を通じて、高品質なカカオのより安定的かつ効率的な生産をサポートしています。また、ガーナでは、カカオの生産が森林減少につながることのないように、GPSを用いて調査を行ったり、児童労働に関する勉強会を開催したりなど、より多様な視点からSDGsの達成に向けて貢献しています。

キーワード

黄金海岸

現在のガーナを指し、金・石油・天然ガスなどが豊富なことから17～18世紀ごろのヨーロッパ人によってつけられた名称で、「ゴールド・コースト」ともいいます。

黄熱

黄熱ウイルスを持つ蚊から感染する病気で、発症すると死に至ることもありますが、現在は有効な予防接種があり、発症を防ぐことができます。

営農指導

気候変動に適したカカオの栽培法や、森林減少を食い止める農業のあり方などについて指導する勉強会です。

みなさんにできること！	
ガーナが抱えている問題に目を向け、さらに理解を深め、なにができるか考えていきましょう。	
おさらい	● ガーナは、カカオの生産量が世界で2番目に多い。 ● 現在日本に輸入されているカカオの約3/4がガーナ産。 ● 井戸の寄贈や苗木の無償配布などにより、高品質カカオの生産支援を進めている。

メモ

SDGs ラジオ